N01 悲喜交々ー和讃

平調

詠歌約一分十五秒、和讃は約一分二十五秒で唱える

はれやかに

（原曲「壽ぎ和讃（結婚賛歌）」）

（注1）楽譜・原曲は福聚(ふくじゅ)教会叡山流
詠歌和讃音譜集に掲載

（注2）替え歌の詩(短歌・和讃)は
大沼香作　2015(H27)年6月6日（土）

問いかける吾の人生どう描く→（５・７・５）

一、貴方語りは美を創り　君の語りは世を築く（７・５）
　吾の語りは我を造り　三様溶けて味が出る（７・５）
　　→宇宙と対話思うが儘に（７・７）

内にある私心の清濁を→（５・７・５）

二、会話の種は無量の寿　清水の如く湧き上がる（７・５）
　個性持ち味交わって　才気が絡み酷が出る（７・５）
　　→夢でかき混ぜダイヤを作る（７・７）

人生の貫通力の御馳走は→（５・７・５）

三、波乱万丈壁を越え　聞くも語るも尽きはせぬ（７・５）
　互いに贈る手土産は　篤き心の花束よ（７・５）
　　→消されはしない生労病死（７・７）

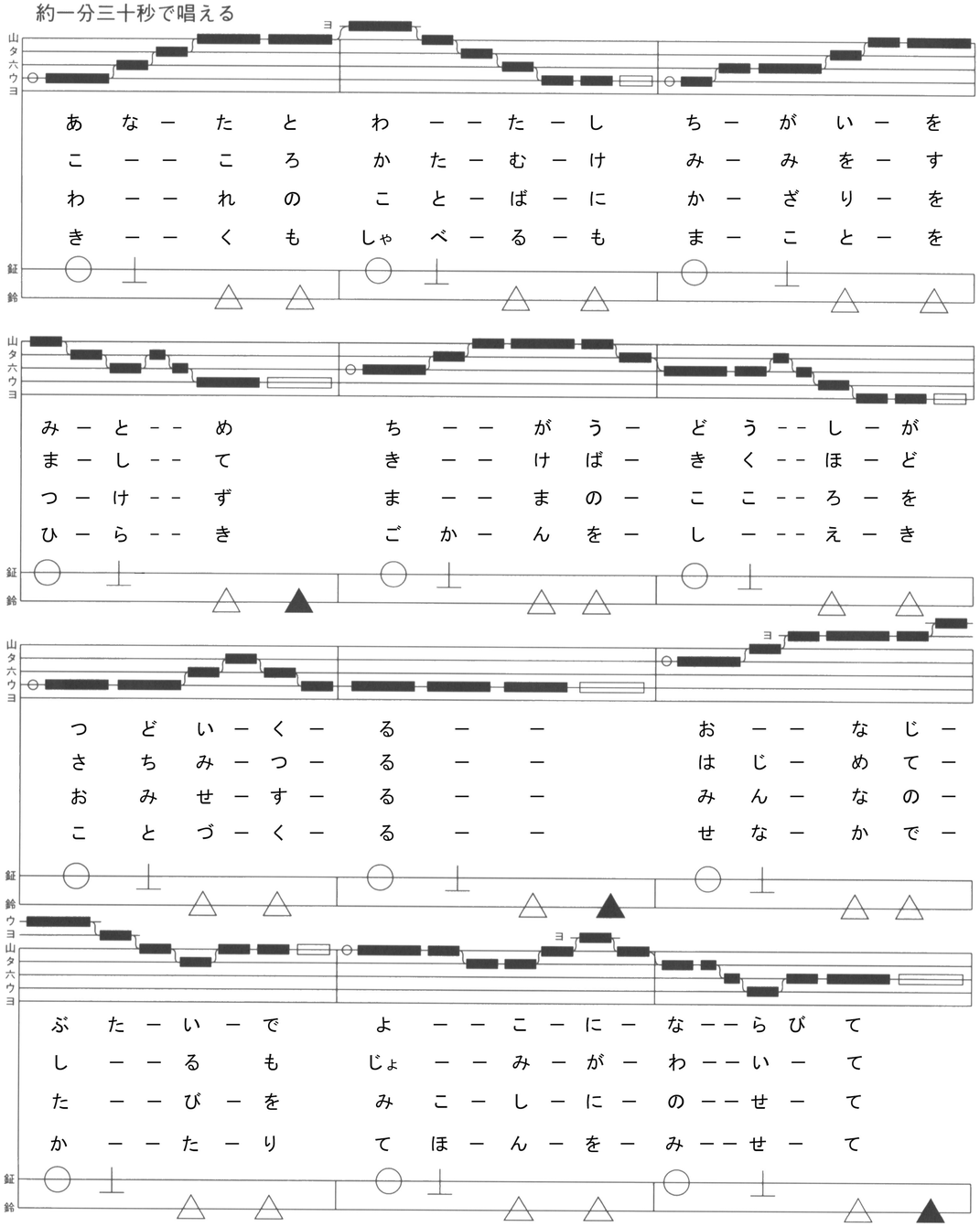
天空に皆の生業映し出す→（５・７・５）

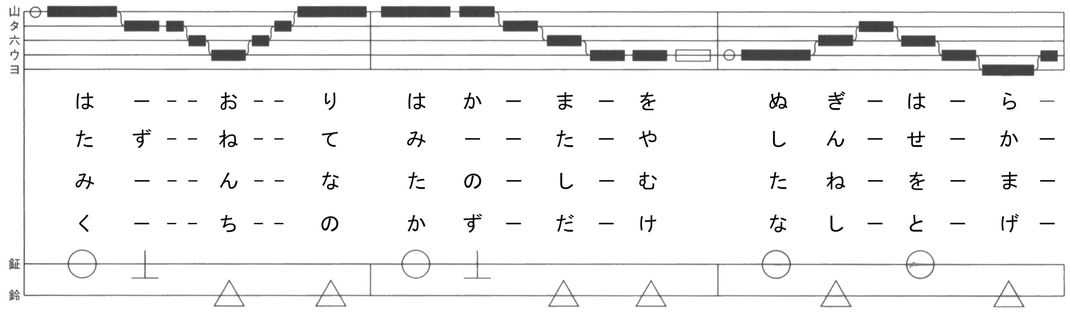
四、秘めた思いを十字路で　花火に乗せて打ち上げる（７・５）
　星も応援途切れなく　幸の久寿玉満天に（７・５）
　　→涙も誘うプラネタリウム（７・７）

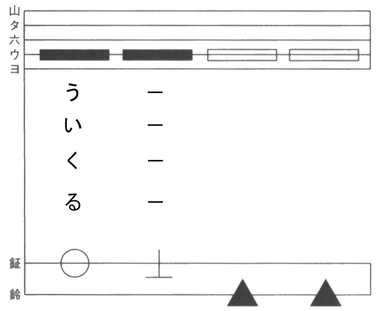
N02　対等互敬－和讃

（原曲「浄邦和讃」）

平調
約一分三十秒で唱える







（注1）楽譜・原曲は福聚(ふくじゅ)教会叡山流詠歌和讃音譜集に掲載
（注2）替え歌の詩(短歌・和讃)は大沼香作　2015(H27)年6月6日（土）

（短歌）

諸人(もろびと)は長短混じる生きものだ　長所は短に短所は長に
それぞれの人生模様奥深く　生涯学びの互いが教師
お互いを比べる自体無理がある　吾(われ)と貴方は異色のダイヤ
私等(わたしら)の中(ちゅう)を貫く大道を　日々に磨いて不朽の軸に

（集う）貴方と私違いを認め（7・7）
違う同士が集い来る（7・5）

（行う）同じ舞台で横に並びて（7・7）
羽織袴を脱ぎ掃(はら)う（7・5）

（聞く）心傾け耳を澄まして（7・7）
聞けば聞くほど幸満(さちみつ)る（7・5）

（話す）初めて知るも情味(じょうみ)が湧いて（7・7）
訪ねて見たや新世界（7・5）

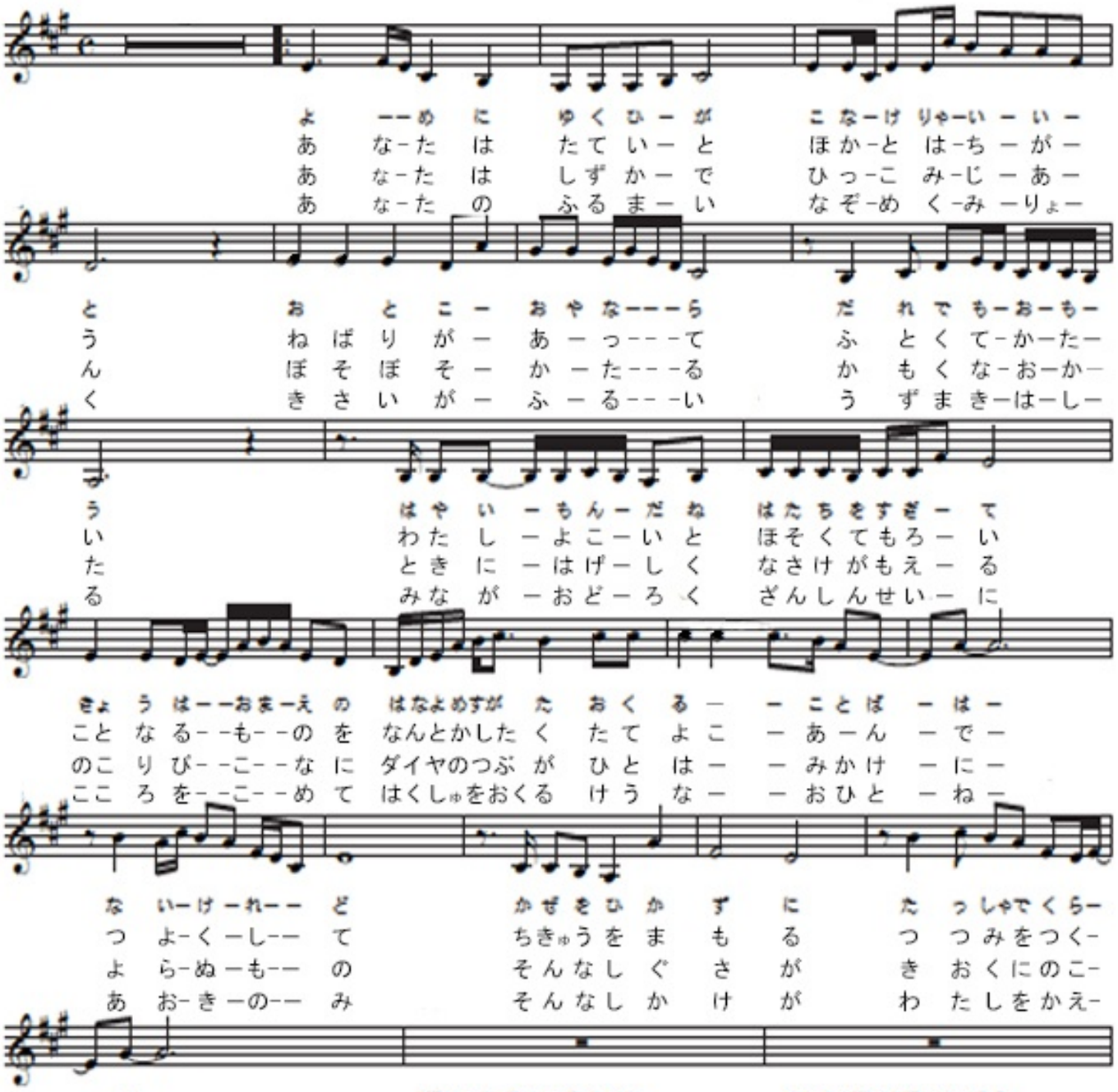
（行う）吾(われ)の言葉に飾りを付けず（7・7）
ままの心をお見せする（7・5）

皆(みんな)の人生(たび)を神輿に乗せて（7・7）
皆楽(みんな)しむ種を蒔(ま)く（7・5）

（聞く）聞くも喋(しゃべ)るも真(まこと)を開き（7・7）
五感を使役(しえき)物事(ことづく)作る（7・5）

（話す）背中で語り手本を見せて（7・7）
口の数だけ成(な)し遂(と)げる（7・5）

N03　オンリーワンの華びら－歌謡曲



（注１）音符直下の歌詞は、「娘よー（歌唱－芦屋雁之介／作詞：鳥居実／作曲：松浦孝之）」の一番目の歌詞

（注２）替え歌の詩は大沼香作2015(H27)年11月1日（日）

（原曲「娘よ」）

（異種混合・綾織りの強靭性）

一、貴方は縦糸　他とは違う
粘りがあって　太くて堅い
私横糸　細くて脆い
異なるものを　何とかしたく
縦横編んで　強くして
地球を守る　包みを創る

（セリフ）
貴方と出会い、すがしき風が吹き渡る
貴方の波動が私に絡み付き、とても
嬉しくなりました。オンリーワンは
対等互敬（恵）の印です。

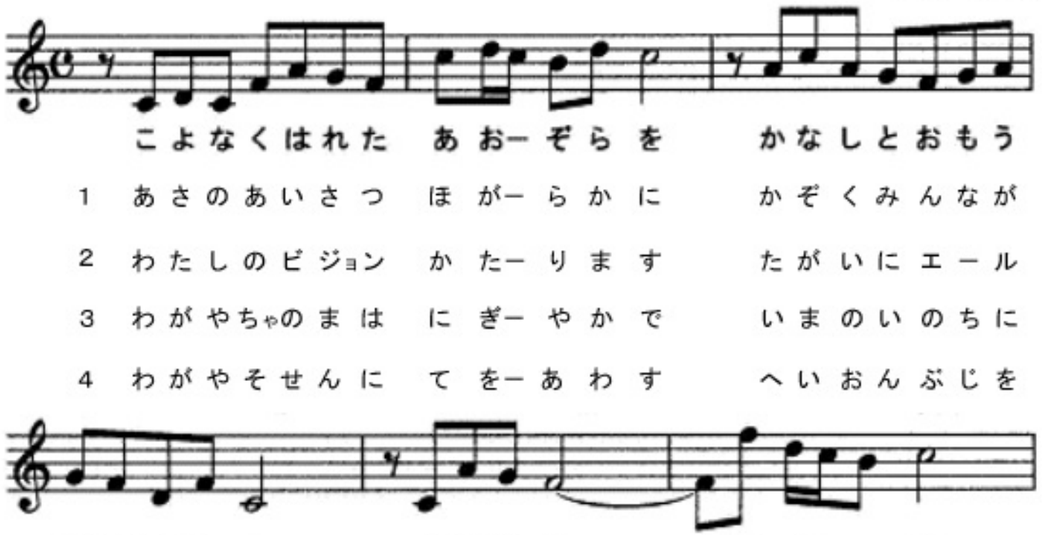
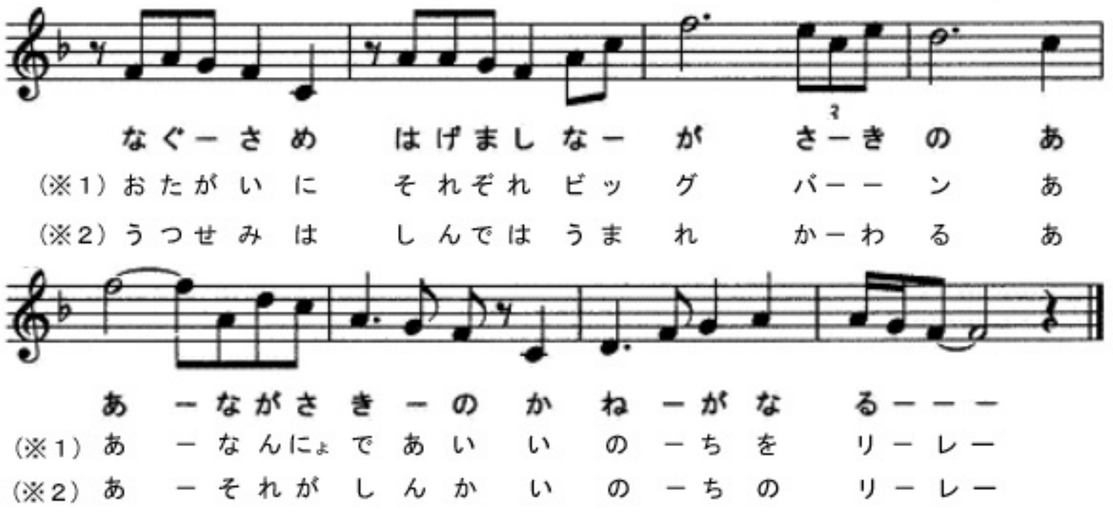
（寡黙な方）

二、貴方は静かで　引っ込み思案
ぼそぼそ語る　寡黙なお方
時に激しく　情けが燃える
残り火粉に　ダイヤの粒が
人は見かけに　由らぬもの
そんな仕草が　記憶に残る

（奇人変人）

三、貴方の振る舞い　謎めく魅力
奇才が奮い　渦巻走る
皆が驚く　ざん新性に
心を込めて　拍手を贈る
稀有なお人ね　青木の実
そんな仕掛けが　私を変える

N04　命のリレー―歌謡曲

（原曲「長崎の鐘」）

四、朝の挨拶朗らかに　家族皆が集まりし
三、真心開き率直に　三世を語る声弾む
二、私のビジョン語ります　互いにエール贈ります
一、気遣う心が和を作り　世代の違いを吹き祓う

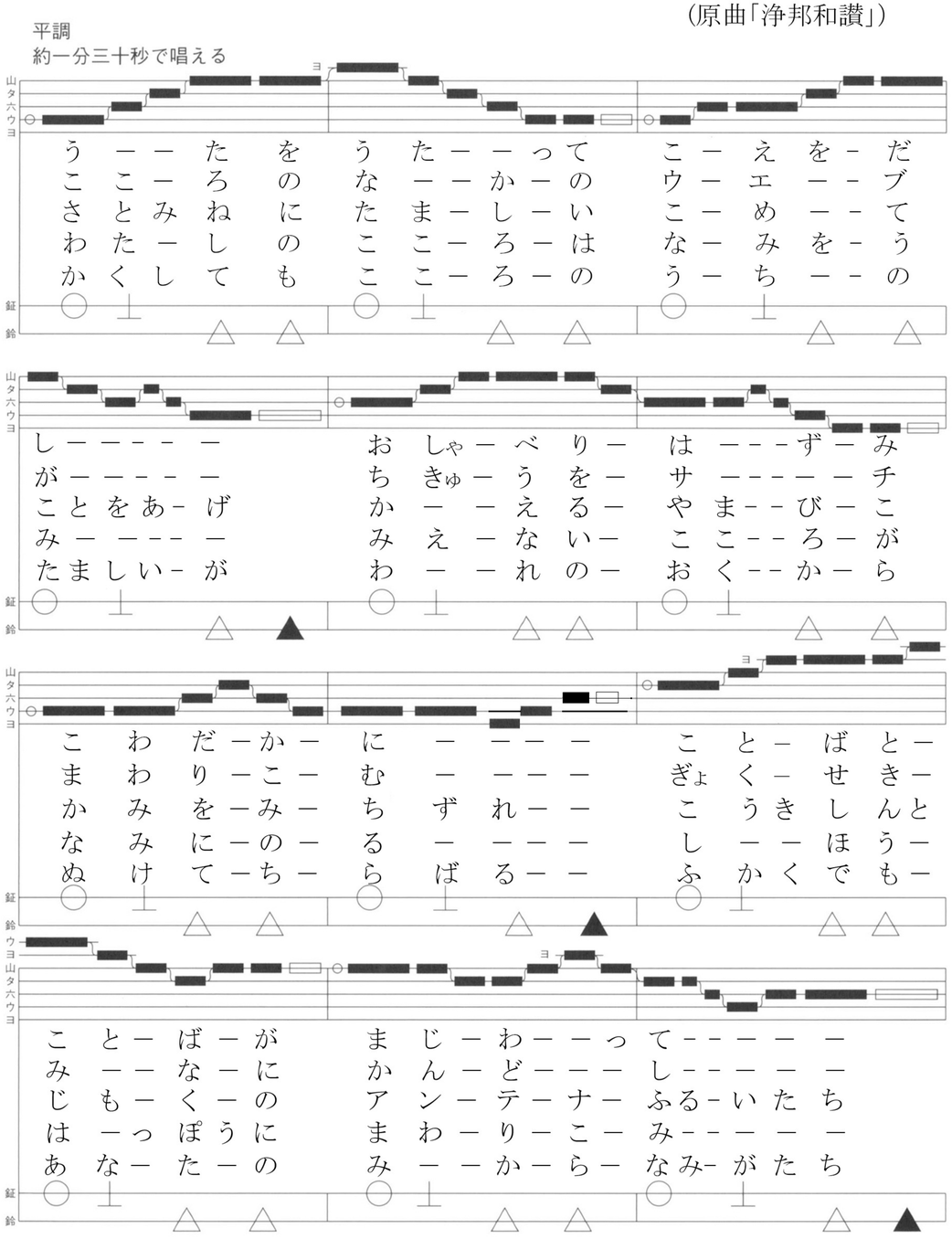
吾が家茶の間は賑やかで　今の命に感謝する
同胞一族道を継ぎ　久遠成就が永久に乗る
我が家先祖に手を合わす　平穏無事を祈ります
心経祝詞重ねます　弥陀の祖神が聞こし召す

（※1）
お互いにそれぞれビックバーン
（ああ）男女出会い命をリレー
（※2）
現実は死んでは生まれ変わる
（ああ）それが進化命のリレー

（注１）音符直下の歌詞は、「長崎の鐘（歌唱ー藤山一郎／作詞；サトーハチロウ／作曲；小関裕而）」の１番目の歌詞
（注２）替え歌の詩は大沼香作 2015(H27)年6月6日（土）

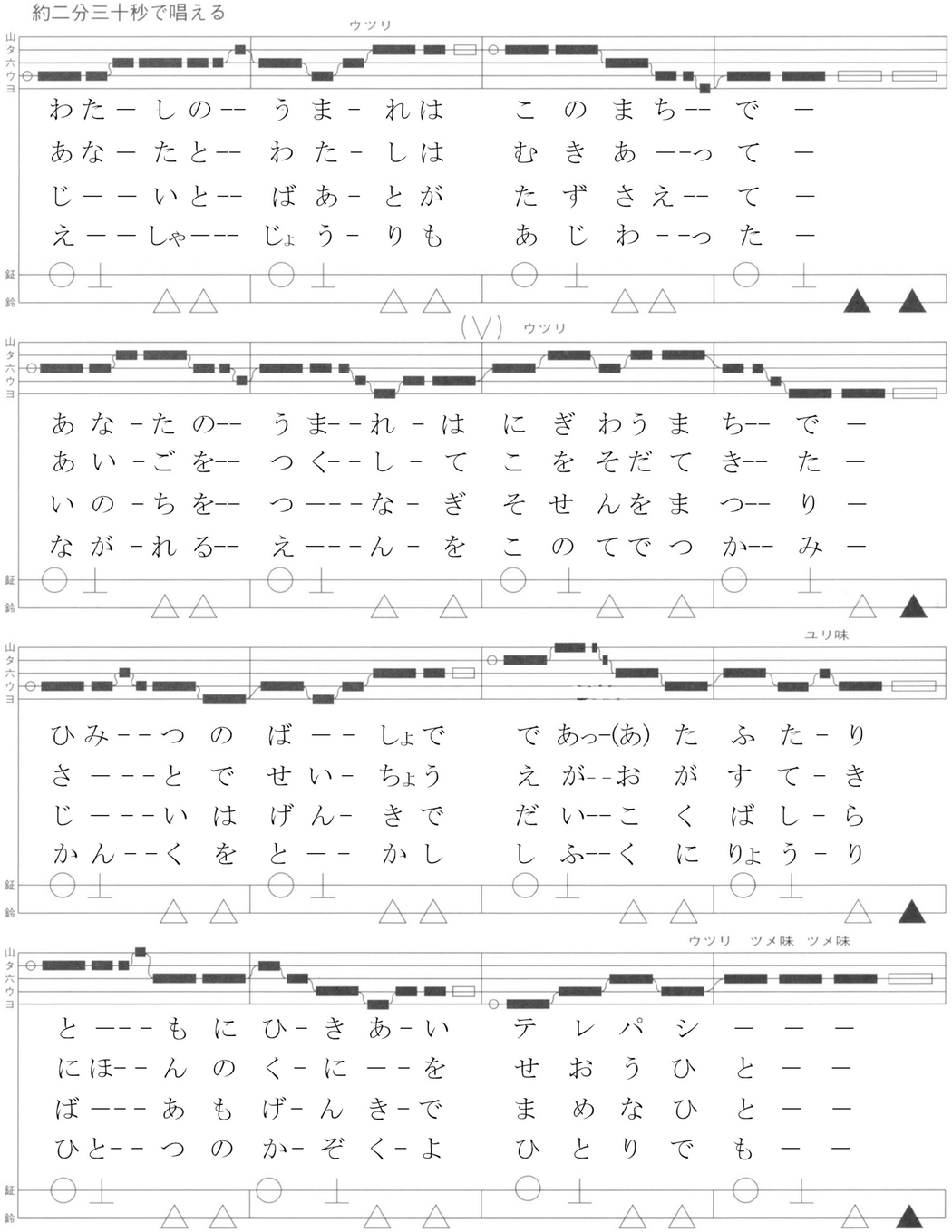
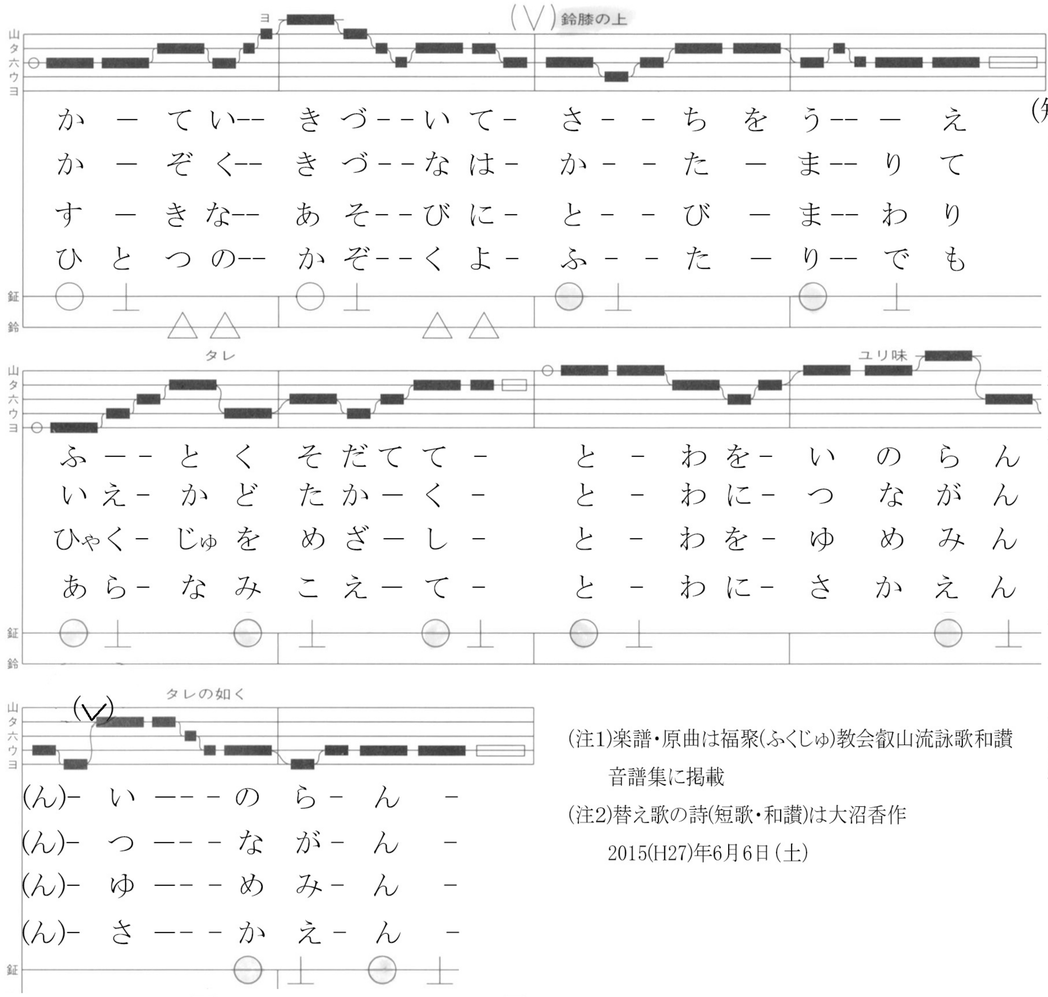
N05　不視(みえざる)波動の力　－和讃

（原曲「浄邦和讃」）

平調
約一分三十秒で唱える

うーたをーだ
うこさわかたろねしてをのにのもたまーしーいはこーろーのこーかーのしーみーをーうちーーのたってえをーだ
うなたここまエこなうブてうの
しーーーーーしがーーーーーことをあーげみーーーーーたましいーがおしゃーべりーはーーーずーみちきゅーうをーサーーーーーーチちかーーえるーやまーびーこがかみえーないーおこーろーかーらわーーれのーおくーーかーーーーってしふるーいーたちたがーーーーーー

N06　家族和合－和讃

（原曲「慈覚大師讃仰和讃」）

平調
約二分三十秒で唱える

（短歌）
築くなら　不落のお城　雄大に　門戸開放　どうぞお越しを

（注1)楽譜・原曲は福聚(ふくじゅ)教会叡山流詠歌和讃
音譜集に掲載
（注2)替え歌の詩(短歌・和讃)は大沼香作
2015(H27)年6月6日（土）

一、
私の生まれはこの町で
あなたの生まれは賑わう街で
秘密の場所で出会った二人
共に引き合いテレパシー
家庭築いて幸を植え
太く育てて永久を祈らん

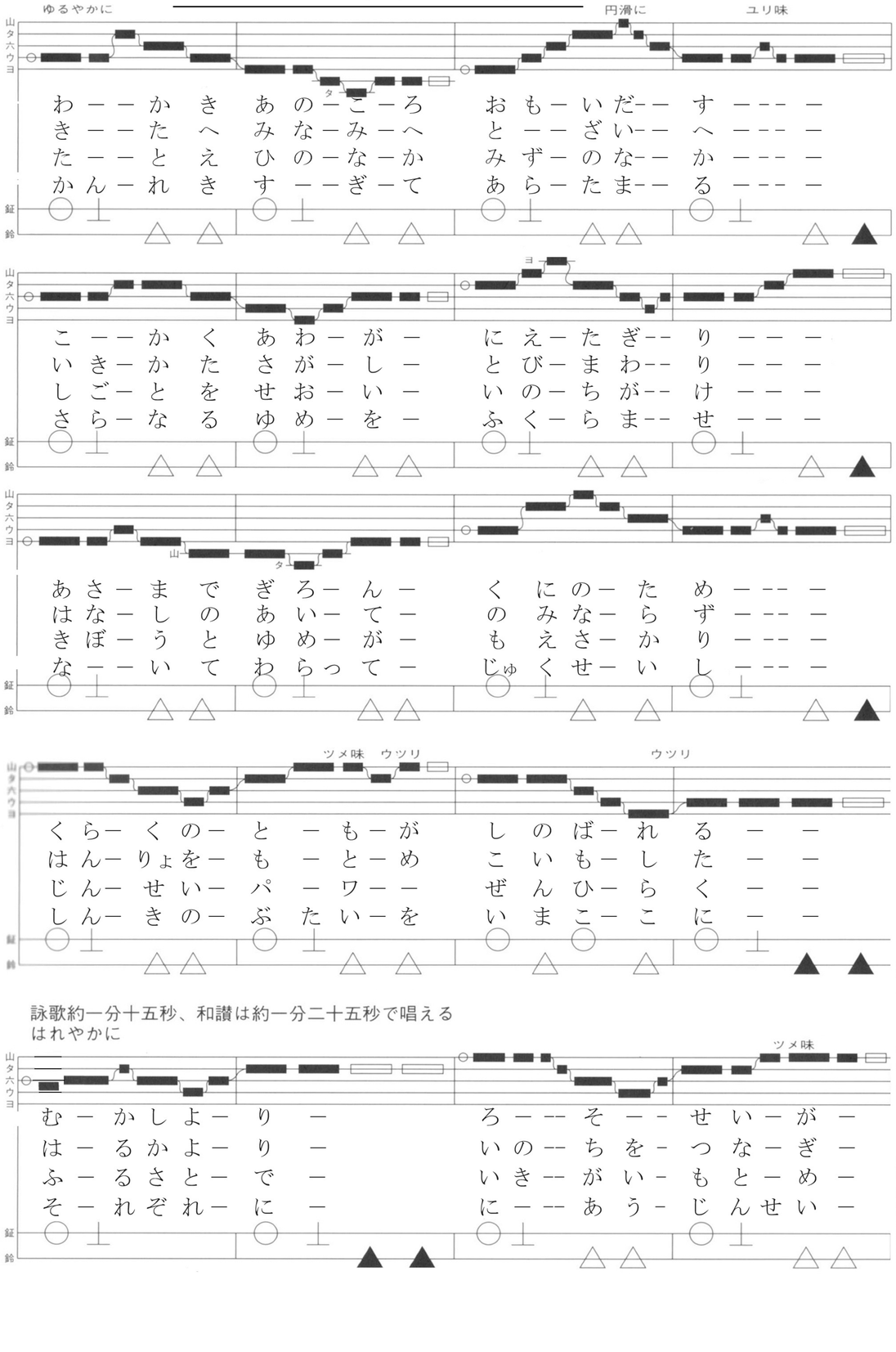
二、
あなたと私は向き合って
愛護を尽くして子を育て来た
里で成長笑顔が素敵
日本の国を背負う人
家族絆は固まりて
家門(いえかど)高く永久に繋(つな)がん

三、
じいとばあとが携(たずさ)えて
命を繋ぎ祖先を祀(まつ)り
じいは元気で大黒柱
ばあも元気でまめな人
好きな遊びに飛び回り
百寿(ひゃくじゅ)を目指し永久を夢みん

四、
会者定離も味わった
流れる縁をこの手で掴(つか)み
甘苦(かんく)を溶かし至福に料理
一つの家族よ独(ひと)りでも
一つの家族よ二人でも
荒波越えて永久に栄えん

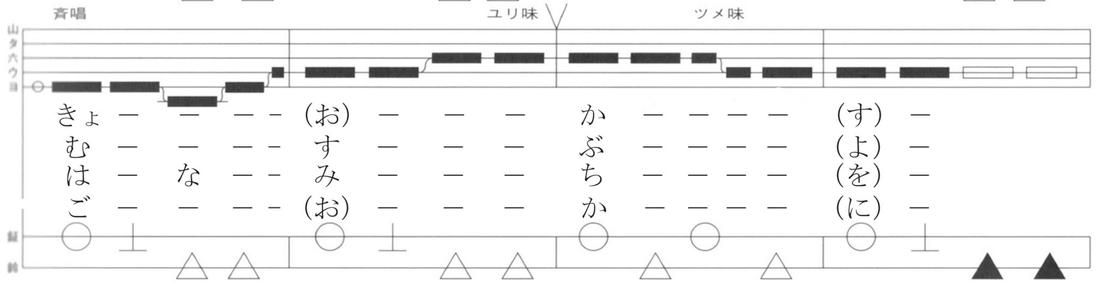
N07　人生賛歌－和讃

（原曲「壽ぎ和讃（結婚賛歌）」）



（注1)楽譜・原曲は福聚(ふくじゅ)教会叡山流詠歌和讃音譜集に掲載

（注2)替え歌の詩(短歌・和讃)は大沼香作　2015(H27)年6月6日（土）



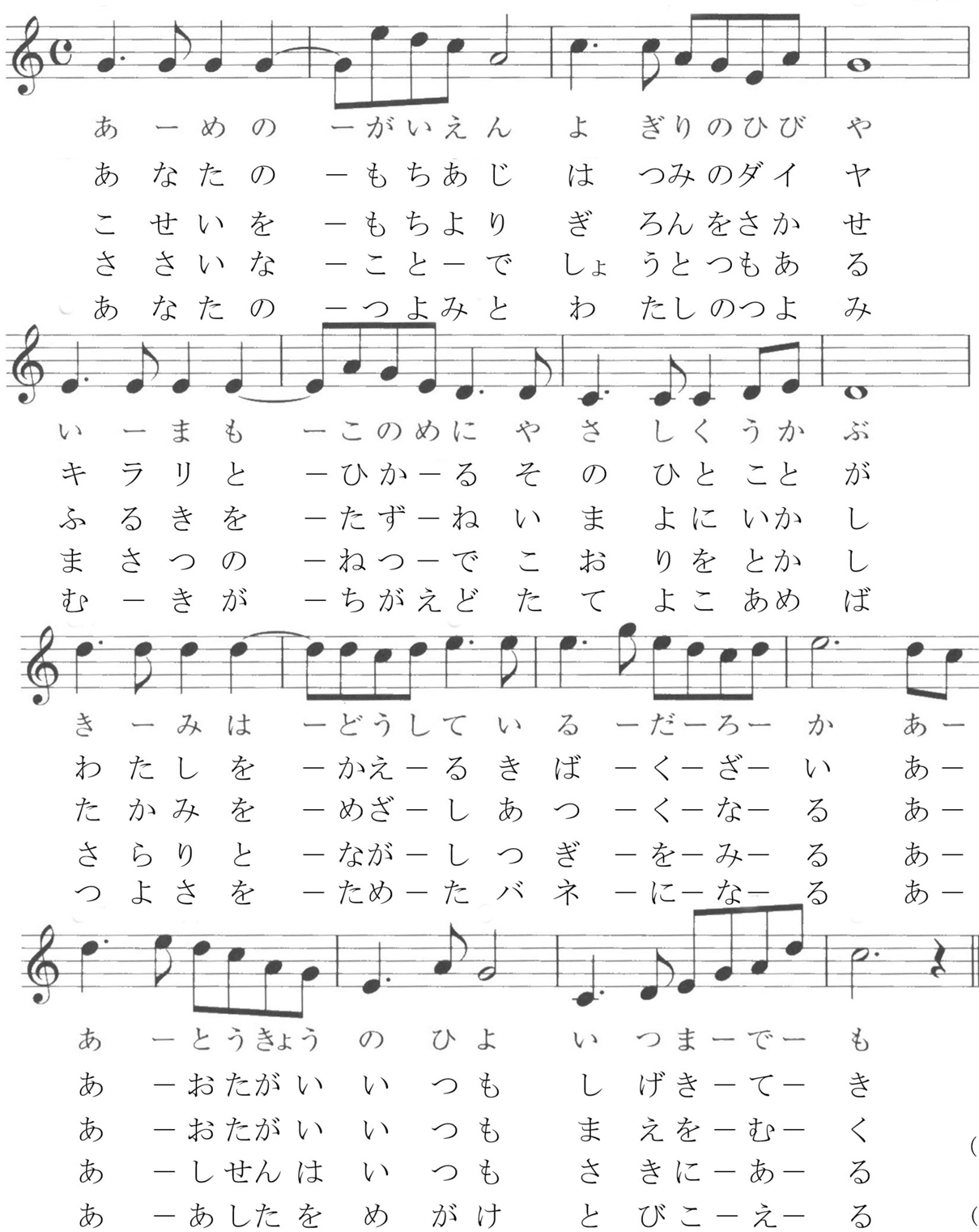
一、若きあの頃思い出す　口角泡が煮え滾(たぎ)り
　朝まで議論邦(くに)のため　苦楽の友が偲ばれる
“昔より老壮青が調和して
　寄り添う知恵が絆を強化“

二、北へ南へ東西へ　生き方探し飛び回り
　話の相手のみならず　伴侶を求め恋もした
“遥かより命を繋ぎ天地人
　天下泰平未来へ結ぶ“

三、喩(たと)え火の中水の中　仕事を背負い命懸け
　希望と夢が燃え盛り　人生パワー全開(ぜんひら)く
“故郷(ふるさと)で生き甲斐求め燃え尽きて
　夢を咲かせし至高の花道“

四、還暦過ぎて新たまる　さらなる夢を膨らませ
　泣いて笑って熟成し　新輝の舞台を今ここに
“それぞれに似合う人生授かりし
　寝ても覚めても絢爛豪華“

N08　個性の摩擦で熱くなる－歌謡曲

（原曲「東京の灯よいつまでも」）

一、貴方の持ち味　初見（はつみ）のダイヤ（8・7）
キラリと光る　その一言が（7・7）
私を変える　起爆剤（7・5）
ああ　お互いいつも　刺激的（7・5）

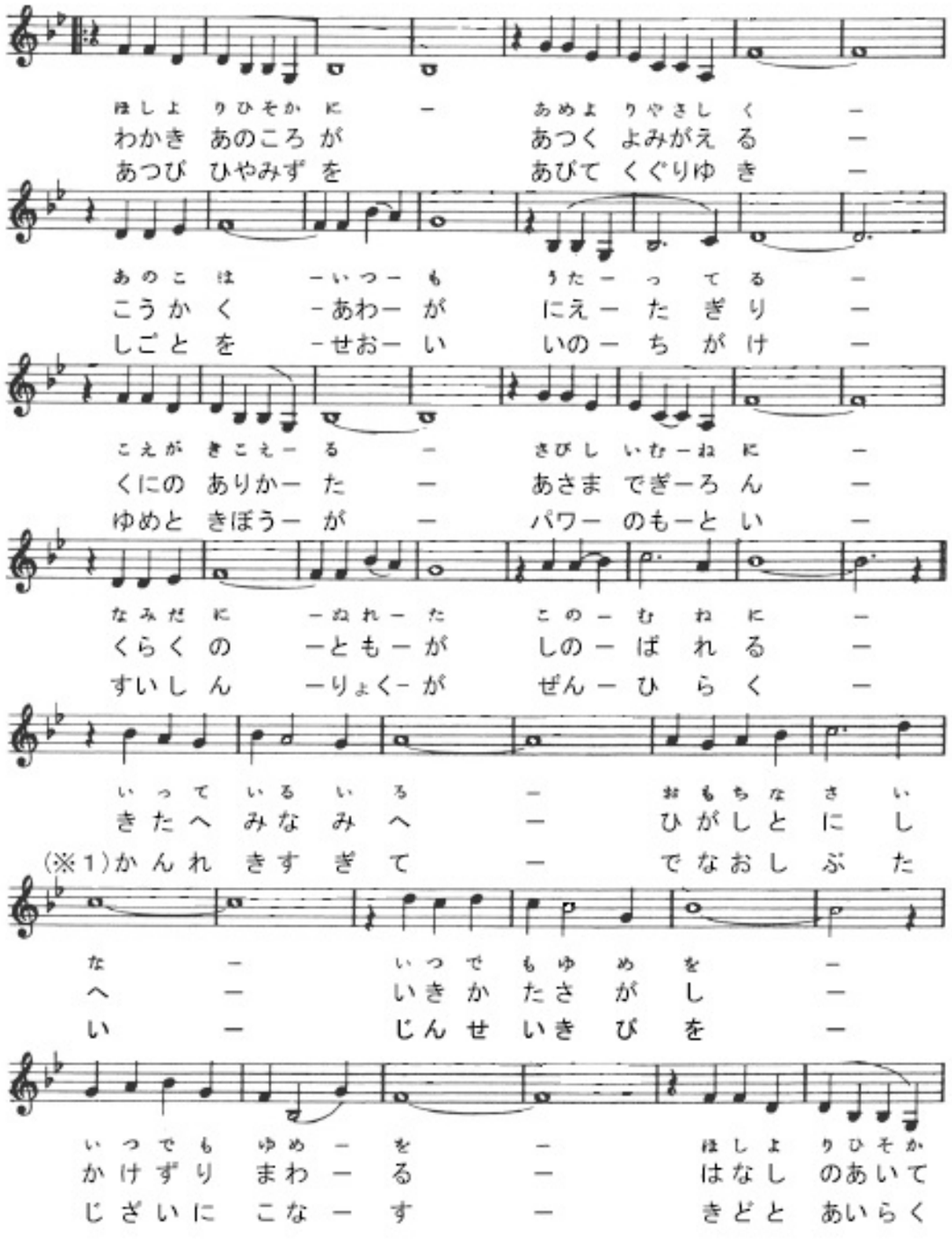
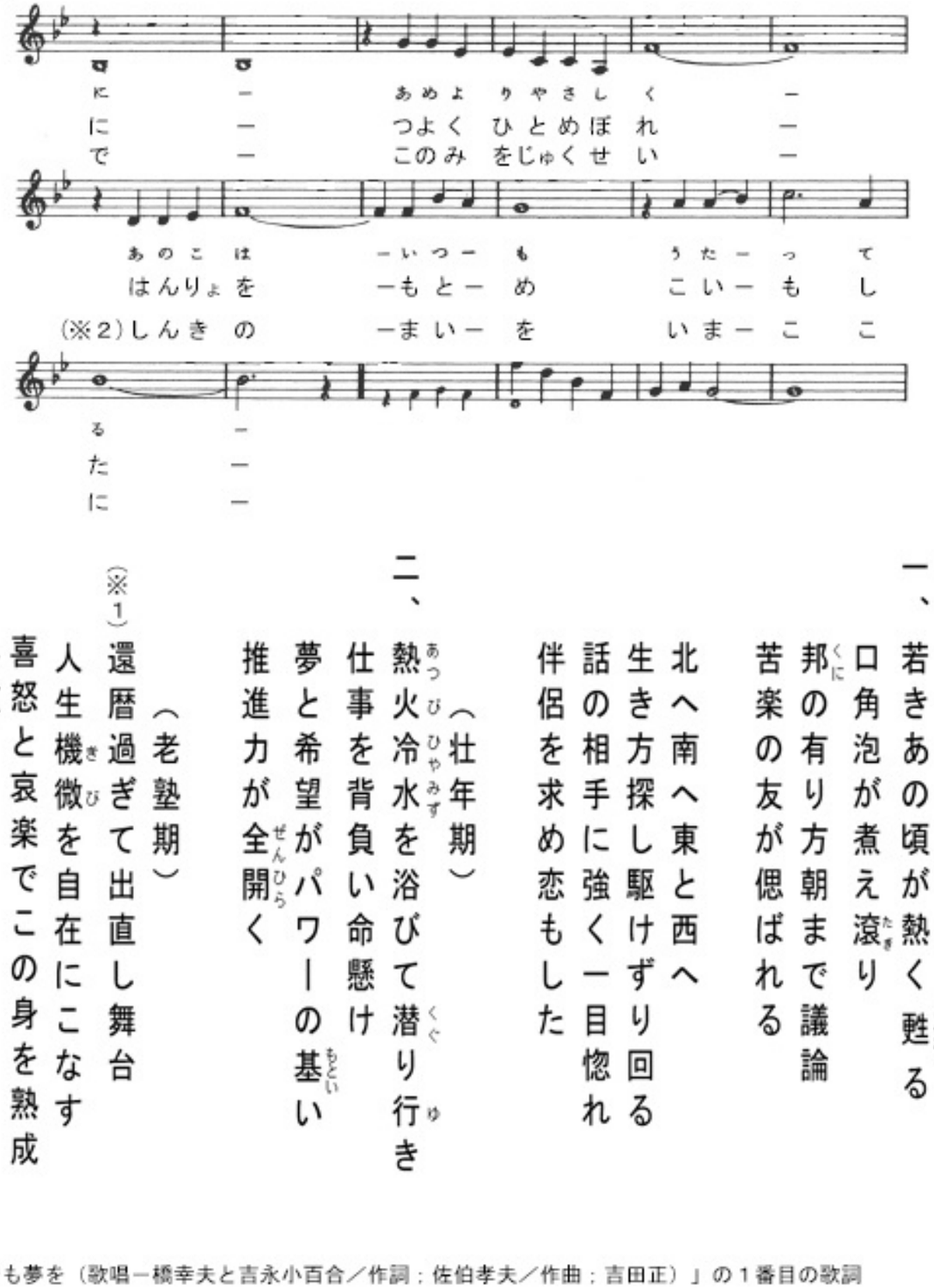
二、個性を持ち寄り　議論を咲かせ（8・7）
旧（ふる）きを訊ね　今世（いまよ）に活かし（7・7）
高みを目指し　熱くなる（7・5）
ああ　お互いいつも　前を向く（7・5）

三、些細な事で　衝突もある（7・7）
摩擦の熱で　氷を溶かし（7・7）
さらりと流し　次を見る（7・5）
ああ　視線はいつも　先にある（7・5）

四、貴方の強みと　私の強み（8・7）
向きが違えど　縦横編めば（7・7）
強さを貯めた　バネに生（な）る（7・5）
ああ　明日（あした）を目がけ　飛び越える（7・5）

（注１）楽譜直下の歌詞は、「東京の灯よまでも（歌唱ー新川二郎／作詞：藤間哲郎／作曲：佐伯としお）」の一番目の歌詞
（注２）替え歌の詩は大沼香作 2015(H27)年11月20日（金）

N09　大波人生謳歌－歌謡曲

（原曲「いつでも夢を」）

一、若きあの頃が熱く甦る
二、口角泡が煮え滾り
邦の有り方朝まで議論
苦楽の友が偲ばれる
北へ南へ東と西へ
生き方探し駆けずり回る
話の相手に強く一目惚れ
伴侶を求め恋もした

（青春期）

熱火冷水を浴びて潜り行き
仕事を背負い命懸け
夢と希望がパワーの基い
推進力が全開く

（壮年期）

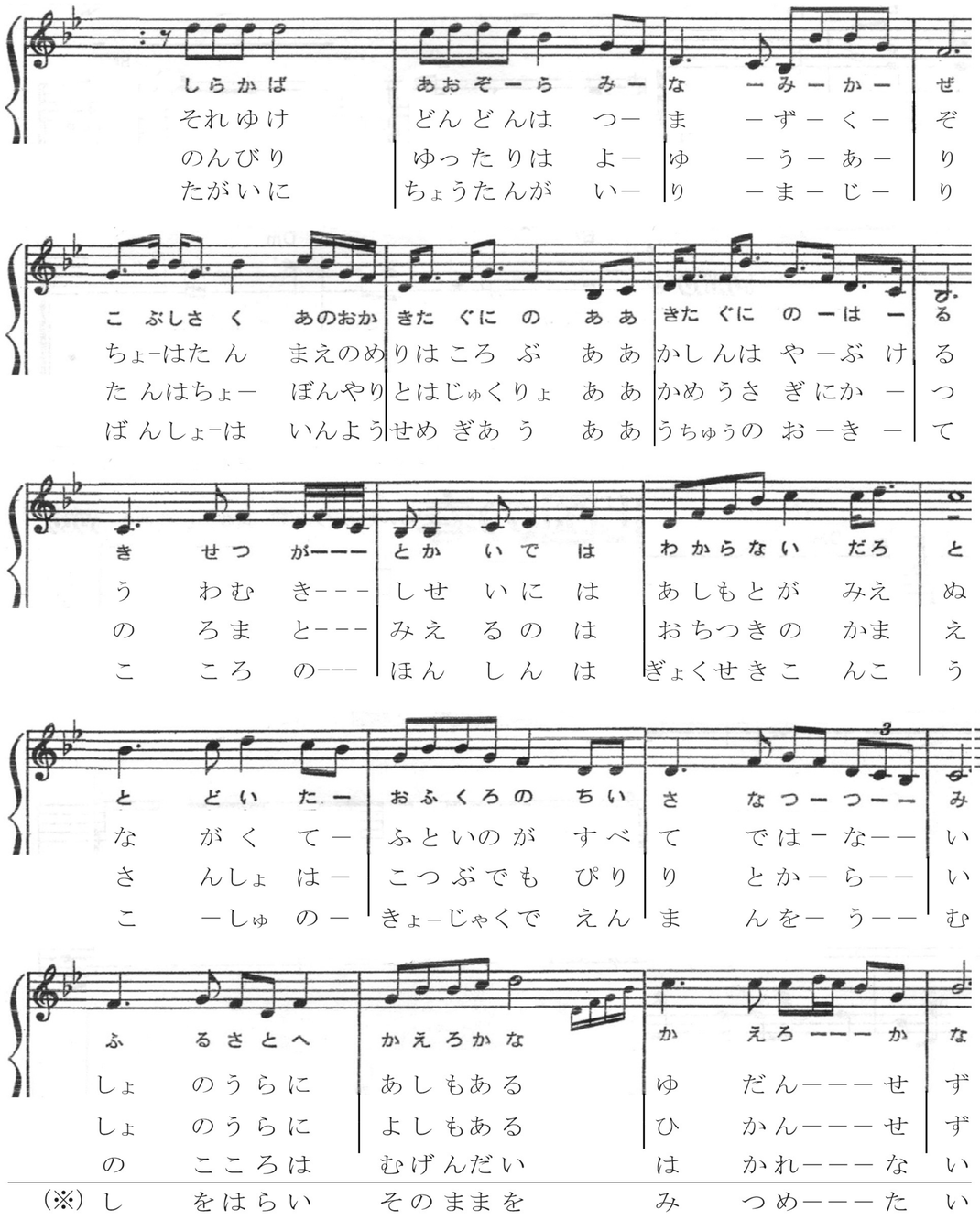
還暦過ぎて出直し舞台
人生機微を自在にこなす
喜怒と哀楽でこの身を熟成
新輝の舞いを今ここに

（老塾期）

（注１）音符直下の歌詞は、「いつでも夢を（歌唱－橋幸夫と吉永小百合／作詞：佐伯孝夫／作曲：吉田正）」の１番目の歌詞

（注２）替え歌の詩は大沼香作　2015(H27)年6月6日（土）

N10　人には一長一短－歌謡曲

（原曲「北国の春」）

（※）さく

一、それ行けどんはつまずくぞ
長は短、前のめりは転ぶ
ああ、過信は破ける
上向き姿勢には足元が見えぬ
長くて太いのが全てではない
長所の裏に悪（あ）しも有る、油断せず

二、のんびりゆったりは余裕あり
短は長、ぼんやりとは熟慮
ああ、亀うさぎに勝つ
のろまと見えるのは落ち着きの構え
山椒（さんしょ）は小粒でもぴりりと辛い
短所の裏に善（よ）しも有る、悲観せず

三、互いに長短が入り混じり
万象（ばんしょう）は陰陽せめぎ合う
ああ、宇宙の掟
心の本芯は（長短）混淆（玉石）
攻守の強弱で円満を生む
人の心は無限大、量れない
・・・・・・・・・・・・・・・・
錯視（さくし）を祓いそのままを見つめたい

（注１）楽譜直下の歌詞は、「北国の春（歌唱ー千昌夫／作詞：いではく／作曲：遠藤実）」の一番目の歌詞
（注２）替え歌の詩は大沼香作 2015(H27)年6月6日（土）